

第2回 いじめ未然防止・対策委員会 議事録

1 開催日時：令和3年3月1日（月）

2 開催場所：書面開催

3 参加者

田中 敦（弁護士）、加藤 美恵（公認心理師）、横地 玲子（地域代表）、
柴田真由弓（保護者代表）、大嶋 美香（保護者代表）、
安藤 和昭（校長）【委員長】、吉田 益穂（教頭）、安田 貴彦（生徒指導主事）、
溝口美智代（1年副主任）、牛丸美津子（2年副主任）、石田 春彦（3年生徒指導担当）
原 直子（教育相談）、近藤 浩美（養護教諭）

4 会議の概要（協議事項）

1) 本校の今年度の報告

①いじめに関するアンケート結果

今年度認知した8つのケースについて、概要と対応方針を説明した。幸い、すべてのケースでその後、事態が悪化することがなくここまで来ている。しかし、アンテナの感度を緩めることなく、最低でも3か月は様子を見ながら、解消に向けて取り組んでいるところである。

いじめの認知に関して、初期段階のものも含めて、まだまだ行えていないところがあるため、さらに教員への研修を深め、アンテナの感度を高めていきたい。

②心のアンケート集計結果

第11回までの集計結果をすべて表にし、示した。4月20日に実施した第1回アンケートでは、悩みや不安等を訴える生徒が58名と最大であった。休校があける前の第2回、3回では、10名、11名と少なくなり、その後は10名未満で推移した。

③心のアンケートでの自由記述について

第1回では、新入生から「友達ができるかどうか」「勉強についていけるかどうか」といった不安をあげる声が多かった。2,3年生からは部活動、修学旅行、進路に関するものが多かった。

2) 各学年等からの報告

①1年生

- ・人権意識は薄く、幼い。とくに男子生徒がその傾向が強く感じられる。
- ・人との関わり方が粗野で、相手の気持ちを考えることが難しい生徒もいる。仲間内での会話などでも気になる言葉かけなどがあり、悩んだり傷ついたりする場面もある。
- ・受け手も純粋で傷つきやすいため、担任はもちろん学年や教科担など情報を共有しながら、見守りや適切な対応が大切である。

- ・生徒からの申し出には誠実に学年として対応している。

②2年生

- ・年度を通して1年次に引き続き、比較的落ち着いた雰囲気をもっている。
- ・1年次に普通科1名、生活福祉科1名が進路変更を行った。また、2名が年度末に不登校傾向を示した。
- ・2ヶ月間の休校により、リズムが壊れたり、クラス作りができていなかったり、学習がうまく進められなかったりして、疲れたり不安を持った生徒は多く、学校が再開された心のアンケートでは、学校生活に不安や不満を答える生徒がみられた。
- ・2年生では現在まで、普通科転学者1名、生活福祉科転学者1名、退学者1名、不登校傾向の生徒が普通科2名、生活福祉科1名、通信転学希望生徒が普通科1名という状況である。いずれも、いじめを要因とする事案はみられないが、集団生活の中での学習活動に困難を要する生徒が増えている。
- ・以上の生徒に共通することは、同級生との人間関係を積極的に構築していくことが難しいということである。
- ・今年度、クラスでの行事（修学旅行、HR活動など）が削減され、普通科、生活福祉科ともに、新しいクラスへの同調がなく、コミュニケーションの機会が減少したため、後期後半になってやっと、クラスの仲間づくりができてきた傾向にある。
- ・いじめという事案はなかった1年間だったが、教師側として生徒同士でのよい人間関係の構築を支援していくことに力を入れ、HR（ホームルーム）や授業、部活動などを行っていくよう心がける必要あると感じた。また、SC（スクールカウンセラー）を活用し、小さい事案のうちに支援していくことも大切であるとも感じた。

③3年生

- ・今年度の本校生徒のいじめに関する事案（いじめアンケートの報告等）を見ると、インターネットやSNSでのトラブルは少ないように思われる。ただ、報告されてきていないだけで、実際は起きているかもしれないという視野はもっておく必要があると考える。
- ・自身に関わる生徒からのいじめの報告としては、同じクラスの距離が近い、普段から交流がある仲間内のやり取りの中で、相手の言動により心が傷ついた、というものがあつた。比較的近い間柄と当事者が感じている仲間うちで、相手生徒からすれば「いじめ」という意思のない言動で当事者が傷つくというものである。当事者が被害を訴えられればまだ良いが、訴えることができず、心の傷というストレスが蓄積されていくことの危険も考えられる。

④教育相談担当

- ・いじめという言葉で生徒たちは表現しないが、女生徒が多い学校なので友達関係に悩む生徒は何人かいる。
- ・2年次からは普通科・生活福祉科ともにコースごとの選択授業が入ってくる。「コース

の中に友達がいらない」、「1年次からあまり仲が良くない生徒と2年次も同じクラスでストレスがある」、「女子がいつも自分の悪口を言っているような気がする」など悩んでいる生徒に対しては、スクールカウンセラーとの面談の機会を与え、話を聞いていただいた。状況がすぐに良くなるわけではないが、自分なりに考えて努力し、登校している。

- ・球技大会・文化祭・作品発表会など学校全体で取り組むときにはトラブルが起こりやすい。今年度についてはコロナ禍ということで、生徒たちが周りに対して優しさと協調性を持って取り組めたことで、特に大きな問題はなかったと思う。
- ・SCの温かい言葉かけと、優しい雰囲気がコロナ禍で不安定な生徒にとっては、心をゆっくり解きほぐしていくことで、自分の今の気持ちを素直に話すことができ、安心感につながっている。
- ・生徒自らがこの苦しい状況を何とかしようとしていることに注目し、褒めていただくことで生徒が今の自分を認め自信を持つことができる。
- ・子どもが不登校になり自らを責める保護者の気持ちに寄り添い、苦しんでいる子どもの気持ちを共有することで、親自身の気持ちの訴えに優しく対応していただいた。
- ・コロナ禍で特に一学年に不登校、転学の生徒が例年になく多くみられる。SCにつなげていくタイミングが難しい。登校して来ないうちに進路変更まで進んでいくことでSCの支援までつながらない例が多い。
- ・若い担任の先生など、なかなか親の心に寄り添うことが難しいことからSCの活用が重要である。
- ・学年ごとの研修会ができるとうい。SCやその他ご助言いただきたい方にご参加いただき、現状の問題点に対応できれば、生徒や保護者はもちろん担任の苦悩にも対応できるのではないかと。

⑤保健室での状況（令和2年8月～令和3年1月）

- ・3つの事例に関して、報告があった。
- ・どのケースも咄嗟にその場から逃げ出したい時に、保健室へ来るケースが多い。いじめアンケート等書いた生徒が保健室へ相談に来ることはなく、担任が対応している。
- ・今年度は、重大な案件がなく済んだ。心のアンケートやいじめアンケートなどから、問題が小さなうちに対応できていると思う。

3) 次年度に向けて

①いじめ防止基本方針の見直しについて

次年度の年間行事計画に基づき修正を加えたことと、事案対応マニュアルの表記を一部変更した。

②いじめ防止対策チェックシートをもとに本校の実施形態の見直しについて

県からのチェック内容に対して、本校の実施形態を示し、審議を諮った。

5 外部委員からの意見、要望

- ・不登校や転学者のうち、不登校が長期に及ぶ生徒については、その理由・原因がいじめによるものか否かを判断した判断過程を書面として残しておく。
- ・いじめ防止対策チェックシートの(11)(12)の記録ファイル作成、引継において、これはいじめを受けた生徒のみのファイルなのか。いじめをしたとされる生徒のファイル作成・引継もあるのか。
- ・1年間、コロナで大変だったと思いますが、生徒の不安にきめ細やかに対応されていると感じた。
- ・早い段階で解消に向けての取組ができていると感じました。勇気をもって訴えた生徒さんは心が救われた。
- ・心の不調がある生徒さんが一定数いることがわかりました。しかし、比較的少数であるとも感じた。教職員の皆さんからの心の支援ができている結果である。
- ・新型コロナウイルス感染症の流行が学習面や人間関係に大きく影響し、素直な心の叫びであると受け止めた。具体的な記述も多く、個に合わせた支援ができればと感じた。
- ・人間関係の難しさを感じる生徒さんが多い。人に対する感受性が高く、気疲れしやすい生徒さんがいる。学校という集団生活の中で、自分に合った対処法を見つけながら、社会性を身につけていただきたい。
- ・学校全体で未然防止や早期発見、早期対応、自立支援に取り組む、現状の方針で良いと考える。
- ・教職員全体でいじめの態様、原因、具体的な指導などの共通理解を図り、取り組まれていることが素晴らしい。生徒さんへのいじめ問題に対する意識も高まると感じる。
- ・いじめ被害の生徒さんは、心に深い傷を残すため、継続的な見守りが大切である。しかし、一人の先生のみ負担となることなく、大勢の先生方の目で支援されることを望む。
- ・その都度、きちんと対応していただき、解決できているようでとても良い。
- ・学習面や友達関係だけでなく、今年はコロナの不安も多く、大変だと感じる。数多くアンケートを実施して、言葉にできない不安を記すことができ、とても良い。
- ・生徒へ対応だけでなく、保護者の不安にも配慮していただき、有難い。
- ・いろいろな事例があるが、学校はよく対応していただいている。
- ・表に出ていないだけかもしれないが、SNS上での被害がほとんどなく安心した。
- ・生徒のいろいろな思いを知ることができた。
- ・今年度はコロナでどの学年も大変であったと思われる。感染に対する不安に加え、休校やいろいろな行事が中止になるなど、心が落ち着かない日々が続いたと思われる。
- ・今はSNSの普及で目に見えないいじめも増えてきていると思うが、このようなアンケートで生徒の思いを表に出せる環境があることはよいことである。親としては、子どもの様子に変化がないか、普段から家庭での生活に注意して見守りたい。

以上の意見、要望を反映させた上で、次年度に向けた見直しはすべて承認された。